

創立140周年記念行事

記念式典・記念講演会

11月21日(金)10時30分から、岡山市市民会館において、来賓270名を迎えて記念式典が挙行された。管弦楽部による荘厳な式典序曲に始まり、校長式辞・教育功労者への感謝状贈呈・来賓祝辞と続き、生徒会長のことばと生徒・教職員・卒業生による校歌斉唱で締めくくられた。

記念式典に引き続いて、13時30分より、宮原耕治氏(昭和39年卒京浜同窓会会長・日本郵船株式会社代表取締役会長・経団連副会長)を講師に迎えて記念講演会が行われた。生徒・教職員のほか、式典後も留まられた多くの来賓も参加された。「岡山から、世界にはばたけ!」という演題で、グローバル化が進む中でいかに高い目標を目指すかというメッセージに、生徒は大いに感銘を受けた様子であった。



資料館特別展

11月15日(土)～11月24日(月)、同窓資料館1階の展示室で、『岡山朝日高等学校140年の歩み』として開催された。従来から明治以来の本校の歩みを紹介する展示を行ってきたが、校内での調査・研究の成果や資料の蓄積をふまえて展示を一新した。写真・資料につける説明文を充実させるとともに、展示スペースの構成も変更して見やすくした。現在はこの展示を常設展示としている。

記念演奏会

12月1日(月)、15時から岡山シン

フォニーホールにおいて、世界的に著名なドレスデン国立歌劇場室内管弦楽団のメンバー20名とヴァイオリニスト瀬崎明日香氏を招いて開催した。演奏曲目はヴィヴァルディ作曲『四季』全曲他。

生徒・教職員全員の他、保護者・同窓生約300名も参加し、その音色のすばらしさはもちろん、巧みな演出にも感動した意義深い演奏会となった。



記念美術展

12月16日(火)～12月21日(日)、天神山文化プラザ第2展示室において、現在第一線で活躍されている同窓生の作品を展示するとともに、若い卒業生の作品も紹介し今後の制作を奨励するという趣旨で開催した。

本校の現旧芸術科教員の作品も含め、58点が展示された。昨年度の日展特選入賞者の2点など各種の入賞経験者の作品のレベルは高く、1,000名を超える来場者に感銘を与えた。



記念刊行物

『写真で語る一四〇年』

本校の沿革の概要を紹介し、同時に「沿革史の図譜となるもの」という意図で、『写された百十年』と題して編纂・発行されて以来、改訂し引き継がれ



てきた写真集を大幅に増補改訂した。今回は「読む写真集」というコンセプトを強調し、戦後史の部分を大幅に拡充し、近年の取組も多く取り上げたことから、総ページ数は旧版の約2倍になった。読み応えがありながらわかりやすく、本校の歩みを概観できるのはもちろん、岡山県の教育史研究にも資するところは大きい。

『烏城』(第173号)

「変化と継承の中で」の副題をつけ、昭和50年代半ば以降を扱った。総合選抜制度廃止に代表される大きな変化の中で、伝統を守りながら新しい取組を進めていった時代を振り返った。卒業生や現旧職員の方々に、在学・在職中の思い出等について執筆をお願いし、25編が収録されている。

『岡山朝日高等学校講演集Ⅱ』

『創立百二十周年記念講演集 進取』のコンセプトを受け継ぐものとして、平成6年以降の創立記念講演会を中心に、現在の朝日高生に是非読んでもらいたい講演を6編集録した。必ずや生徒たちの知的な興味や探求心を刺激し、彼らの進路や人生の選択に寄与するものと考えている。

『岡山朝日高等学校卒業式答辞集』

平成12年から平成26年までの「卒業生のことば」を集録した。いずれも、その年の卒業生の代表としてふさわしいと教員からも同級生からも認められた生徒たちが、真剣に学び悩み苦しんで成長した過程を率直に綴った文章である。在校生の指針となるとともに、朝日高校の教育のあり方を示すものになると考えている。

